アヴィエスファミリー「お住まい拝見レポート」

五感で感じる モミの木の心地よさ 家族への思い込めた我が家

次世代の住まい
AVES 40
CASE 40
宮城県仙台市
Aさんの家
取材日／2014年6月

インテリアの色合いはダークブラウンでトーンを揃え、シンプルで温かみのある雰囲気に。
モミの木の床の優しさも際立ちます。

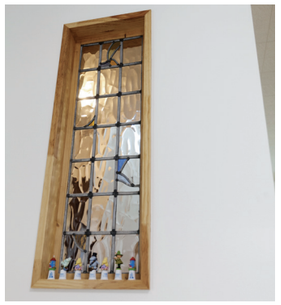
Aさんご夫妻が家づくりに取り組んだのは2012年12月のこと。東日本大震災の津波により沿岸地域にあった家が被災。家族3人でアパートに暮らしていましたが、思いがけず人気の宅地の抽選に当たったことがきっかけで慌ただしくも本格的に動き出しました。

奥さまが憧れていた木の温もりのある無垢材を使った家を探してモデルハウスを訪ね歩く中、最後に訪れたモミの木の家で特に安らぎを感じたとか。「モミの木の良さは直感的に分かりましたが、手入れ法など不安なこともありました。担当のスタッフの方がメリットもデメリットも正直に答えてくれ、そんな人柄の良さも決め手でした」

それからは実際にモミの木の家に住んでいる方の家を訪問したり、モミカフェに参加して知識を深めたり。お話しぶりからAさんご夫妻が楽しんで家づくりをしている様子が伝わってきました。2013年9月に引き渡し。「思いが形になり、自分の家がある喜びを実感しています」とご主人。特にモミの木の床の心地良さには大満足で、取材に訪れたスタッフにも「気持ちいいので裸足になって下さい」と"おもてなし"して下さいました。

入居からの生活を振り返って頂くと、ご主人は「毎冬引いていた風邪を引かずに過ごせました」と奥さまと顔を見合わせてにっこり。お住まい拝見で読んだ皆さんの言葉通りだったね」

スピンオフ壁は防音も優れているので「子どもが遊んでも気を遣わなくてすむのがいいですね」と奥さま


玄関ホールとリビング、リビングと廊下の間仕切り壁にステンドグラスを入れました。
柔らかな光を届けるインテリアです。

琉球風畳の周りにモミの木の床を配したリビング続きの和室。

スペースを工夫して造ったご主人の書斎&ワークスペース。

家事の合間にも家族の会話が増えるようキッチンは対面に。
シンクの上部に吊り棚を付けず、視界と空間を広く見せています。

CASE40:宮城県仙台市　Aさんのお宅
家族構成:ご主人、奥さま、ご長男
延べ床面積:33坪　部屋:3LDK
こだわり設備:モミの木の床、スピンオフ、太陽光発電

電磁波が低く、遠赤外線で調理するDGHもお気に入り。
「料理がさらに美味しくなりました」とご主人。

2Fのファミリースペースは、雨の日の洗濯物干しに活用。スピンオフとモミの木の床の調湿効果ですっきり乾きます。

「発電量によっては電気料金が半分くらいになるときもある」という太陽光発電。

担当より一言

営業
村上

A様ご夫婦は、初来場時、すごく怪しまれた事が印象的でした。「本当ですか〜？」が多かった気がします。無理もないですよね、樅の木とか遠赤外線とか空気とかそんな話ばっかりでしたから・・・（笑）

そんなお二人でしたが、樅の木の事を直感で気に入って下さり、ご夫婦で何度も樅の木を手で摩っていたのをよく覚えています。震災で大変な思いをされ、新たな気持ちで、初めてのマイホーム計画に真剣に取り組んでおられ、自分も一緒にA様の最高のマイホームを建てるぞ！と身が引き締まりました。A様とは歳も近く、お打合せからお引渡しまで、とても楽しく家づくりをさせて頂きました。暮らしの中で「本当ですか〜？」を実感して頂き、今ではっみんなに自慢したい最高の家です！」と話されています（笑）

今後とも長いお付き合い、宜しくお願い致します。

通りに面した小窓には旅先で購入したユニークな人形たちをディスプレイ。